

平成30年度第2回岡山市総合教育会議

日時：平成30年11月20日（火）

場所：市庁舎 第3会議室

午後3時29分 開会

○司会 定刻となりましたので、ただいまから平成30年度第2回岡山市総合教育会議を開催いたします。

本日は全員のご出席をいただいておりますので、会議は成立しております。

傍聴の希望がありますが、入室を許可してよろしいでしょうか。

○市長 はい、お願いします。

○司会 それでは、傍聴者の入室を許可します。

[傍聴者入室]

○司会 協議事項に移らせていただきます。議事の進行は、招集権者である市長にお願いしたいと存じます。

市長、よろしくお願いいいたします。

○市長 はい、わかりました。それでは、次第に沿って議事を進めます。

前回の会議では、学力の向上に向けた取組について議論したところであります。今回の会議では、教育大綱のもう一つの柱である、問題行動・不登校等の防止及び解決に向けた取組を議題とし、議論を深めたいと思います。

まず、文部科学省の暴力行為・いじめ・不登校の調査結果を受け、岡山市における特色や現状の分析結果について報告をしていただき、それらを踏まえて課題や今後の方向性などについて議論していきたいと思います。また、前回に引き続き、岡山市中学校長会の原田会長、岡山市小学校長会の服部会長にも議論に入ってください、学校現場における変化や取組、ご提案など幅広いご意見をいただければと思います。

ではまず、資料について教育長から説明をお願いいたします。

○教育長 はい、失礼いたします。それでは、資料につきまして、私のほうから説明をさせていただきます。

教育大綱に掲げられた大きな2本柱のうちの一つ、問題行動等の防止及び解決の進捗状況につきまして、全国調査の結果とその分析を中心に報告してまいりたいと思います。

資料1をご覧ください。本資料は、先月、10月に公表されました全国調査である「平成

29年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果と分析についてまとめたものでございます。この資料をもとに、まず岡山市の特徴と課題につきまして説明をいたします。

まず、1番の暴力行為ではありますが、全国の傾向と同様、岡山市でも中学校で減少した一方で、小学校では増加しております。

岡山市の特徴としましては、小学校で対教師暴力が増加、6年生で加害児童が急増などのことから、小学校での教師の指導のあり方や指導体制に課題がある、市内全域で未然防止や早期対応の取組の充実が必要である、また指導の一貫性や継続性に課題があるという分析を行いました。

中学校につきましては、警察や関係機関との連携、未然防止の取組の効果があらわれた結果として、発生件数が大幅に減少したと考えております。

次に、いじめについてではありますが、本日の山陽新聞の朝刊にも出ておりましたけれども、1,000人当たりの認知件数は全国に比べて少ないのですが、岡山市での認知件数は前年より増えております。これは、いじめ防止対策推進法に基づきまして、アンケートや教育相談の回数を増やししながら、積極的な認知に努めることで、早期対応を徹底しているためであります。

いじめの解消率につきましては、いじめの解消の定義化により、率は下がっております。今後は、年度を超えた指導の継続や経過観察などが必要であるという分析を行っております。

最後に、3番目の不登校ではありますが、残念ながら、小学校、中学校ともに、出現率が前年度より上昇しております。また、年間90日以上欠席した児童・生徒の割合が高い、不登校が前年度から継続している割合が高いという特徴がございます。特に、小学校では、低学年の不登校児童が多いという特徴もあります。

これらのことから、連続欠席をしている児童への迅速な対応や早期の支援、一旦不登校となった生徒への効果的な支援が必要であるという分析を行いました。

以上の分析から、今後の課題としまして、教育委員会としての具体的な取組を考えました。資料2をご覧ください。1枚物のペーパーでございます。

「岡山市教育大綱の目標実現に向けて」という資料ではありますが、「今後の取組」という枠がございますが、教育委員会は、子どもや保護者に次のことを伝えようとしております。

暴力行為に関しては、教職員が毅然と対応するということ。

いじめに関しましては、積極的に認知し、解決に努めるということ。

不登校に関しましては、連続欠席などへの初期対応や、不登校となる前にスクールカウンセラーや相談機関につなげるなどの取組を徹底すること。

また、中学校区単位で、問題行動などの防止及び解決に向けた体制づくりを進めることで、特に中学校で成果を上げているノウハウが小学校に効果的に持ち込まれることも期待しております。

教育大綱に掲げられた目標に向かい、教職員が一丸となって取り組めるよう、教育委員会としまして、以上のような取組をもって学校を支えていきたいと考えております。

以上で説明を終わります。

○市長 はい、どうもありがとうございました。

片山委員、今回初めてでしたよね。

○片山教育委員 はい、そうです。

○市長 自己紹介を一度やっていただいてからでよろしいでしょうかね。はい。

○片山教育委員 失礼いたします。この10月より、前・塩田委員の後任といたしまして着任いたしました片山と申します。微力ながら、一生懸命務めさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

○市長 はい。本当は、最初にご挨拶をお願いすればよかったんですが、申し訳ありませんでした。

では、委員の皆さんからご意見いただく前に、中学校、小学校の校長会を代表して、原田さん、服部さん、来られてますので、今の教育長の発言に関して、補足、ないしは、これからどうしていくのか、対応策について少し言及していただけますでしょうか。

原田さんからお願いします。

○原田中学校長会長 はい。失礼いたします。日頃は大変お世話になっております。生徒指導等の問題につきましては、もう保護者、地域の方々から温かいご協力をいただき、また教育委員会や警察を初めとする関係機関からは心強いご支援をいただき、また小学校には困ったときには相談に乗っていただき、本当に皆様方に、まずもって感謝申し上げたいと思います。

先ほどご説明がありましたような、さまざまな課題を感じております。中学校では暴力行為については減少しているというものの、まだ全国平均を上回っていますし、暴力行為

が増えている小学校の波が、いずれ中学校にも押し寄せてきます。それから、小学校、中学校とも、いじめと不登校が増加していることに対して、危機感も覚えています。さらに、携帯、スマホについては、なお深刻な問題でありまして、LINEによるトラブル等、ふだん目に見えないだけに、対応に苦慮しているというのが現実です。

それで、私は、中学校では、この暴力行為とか、いじめとか、不登校の問題に対して、平素どのような対応を、取組を心がけているかというものを、大きく3つの柱でご紹介したいと思います。恐らく、小学校も同様だと思いますし、少し時間を要しますが、3つの柱で紹介したいと思っております。

まず、こういった問題に対しての1つ目の大きな柱ですけれども、校内体制の整備ということを中心にしております。中学校でも小学校でも、組織で対応ということを含い言葉にしております。担任だけで抱え込むことのないように、3つの校内体制。

まず、1つは情報共有体制というものです。中学校では教科担任制です。ですから、多くの教職員が一人一人の生徒にかかわることができるというメリットがあると同時に、それらの情報を全ての教職員が共有しなければならないということが望めます。そのために、例えば具体例で言いますと、毎日、職員朝礼とか朝の学年打合会を行って、情報共有している。それから、週に1回、生徒指導係会と主任者会を時間割りの中に位置づけております。それから、月に1回、職員会議、学年会議。それから、定期的に、学校によっては不登校対策委員会等を設けております。

それから、2つ目の体制が、連携体制というものです。これは、学校だけでは解決が困難なケースが多々ありますので、不登校支援員、スクールカウンセラーをはじめ、関係機関、具体的には市教委、子ども相談主事、こども総合相談所、教育相談室、適応指導教室、警察、医療機関等と、ふだんから連携をとるように心がけております。

3つは、早期対応体制というものです。これは、事案が起きた場合に早期解決を目指して、いつでも緊急の生徒指導委員会を開けるように、あるいは、いじめ対策委員会とか不登校対策委員会、ケース会議、そういったものが開けるような体制をつくっております。

以上が校内体制の整備というものです。

大きな柱の2つ目です。それは、未然防止というものです。まずは未然防止だと思っております。

これには、1次的支援ということで、全ての生徒を対象として全教職員が日常的に行う支援、これを大切にしております。主に、次の4つのことに努めて、暴力、いじめ、不登

校の未然防止を図っております。

1つは、教職員と生徒との良好な人間関係づくり、これが生徒指導の基本だと思っております。我々教職員は、基本姿勢としては、生徒理解に努め、受容して、かかわっていく、すなわちカウンセリングマインドというものを基本としております。取組の例としては、平素の挨拶とか、授業、給食、清掃、休み時間、部活動、そういったこと全ての学校生活の中で、教職員自身が心を開いて接することに取り組んでおります。

2つ目は、教師と生徒は先ほど言いましたけれども、生徒同士の共感的な人間関係づくりです。生徒にとって安心して生活できる、学校とか学級集団づくりというものを心がけております。例えば、学級経営であるとか、委員会、係活動、それから学校とか学年行事などの取組を通して、互いに認め合い、支え合う、そういった支持的風土の醸成を通して、集団への所属意識を高めるように努めています。

3つ目は、これはもう忘れてはならないことだと思いますけれども、学びやすく所属感を実感できる授業づくりに努めております。わかる授業、それから主体的に学ぶ授業、そういったものを通して、どの子にも居場所がある、あるいは活躍の場があるというもので、自己存在感とか自尊感情、そういったことの育成に努めております。また、授業の中で、ともに学び合う授業、共同学習とかグループ学習とか、そういったものを積極的に取り入れて、思いやりの心とか集団への所属感の育成に努めております。

4つは、これはもう具体的な取組で、いろいろ断片的にはなるんですけれども、問題行動未然防止には、非行防止教室を警察と連携で行っております。また、携帯、スマホ、ずっと問題になってるんですけれども、これにつきましても、講師を招いての講演会であるとか、情報モラル週間、情報モラル教室、あるいはオフメディア・ウィークに取り組んでる学校が非常に多いように思います。それから、いじめにつきましても、道徳とか、あるいは調査によっては、いじめアンケート、学校生活アンケート、それからASSESS、これは学校環境適応感尺度と言われるものですが、学期に1回行ったり、不登校を未然防止するために、出席状況調査、月3日以上欠席した人は市教委に報告するということも行っております。

そのほか、学期に1度、教育相談期間を設けたり、校内研修も、実は非常に役に立っておりますのが、市教委の指導課から定期に出されております、この「不登校これだけは」、それから「道標」、いじめ発見、通報を受けたときの対応について、非常にタイムリーに届いておりますので、こういったことも利用させていただいております。

最後、3つ目の大きな柱ですけれども、早期発見、早期対応ということです。いわば2次的支援、3次的支援と言われるものです。

まず、早期発見につきましては、当然、多くの教職員による日々の観察というのはもちろんですけれども、学級担任が毎日、生徒から生活ノートを集めて、点検しております。そこに生徒のいろんな思いとか本音がぼろっと隠れている、それを、子どもが発するサインを見逃さないように捉えるようにしております。そのほか、先ほど言いました、いじめアンケート、出席状況調査、教育相談、そういったことから早期発見に努めており、当然、発見したことにつきましては生徒指導の係会とか主任者会で情報共有するようしております。

最後に、早期対応ということです。これは基本は、学年を中心とした組織で迅速に対応するように心がけております。また、早期に家庭連絡とか家庭訪問で保護者の協力を得るということも心がけております。大きな事案が起きた場合は、緊急の生徒指導委員会とかケース会議で対応しますし、また専門的な支援が必要になった場合は、不登校児童生徒支援員とかスクールカウンセラーにつないだり、あるいは先ほど申しあげました関係機関につなぐといったようなことで取り組んでおります。

いろいろ至らない点はあるんですけれども、そういうように頑張っております。また、皆様方からご指導よろしく願いいたします。

○市長 はい、じゃあ、服部さん。

○服部小学校長会長 小学校の服部です。正直申しますと、今、中学校の先生が言われたことが、ほとんど9割、小学校も同じようにやっております、話をすることは、もうほとんど同じなんですけど。

具体的に、取組としましては、情報共有ということが1つ、大きい問題で、それからの指導の一貫性が大事だとは思っております。うちの学校では、月曜日の朝、必ず担任以外の人、みんな集まって、全ての子どもたちの問題行動に対しての情報共有を必ずすると。金曜日の終礼では、その1週間の中での状況の変化等を必ず全員で情報共有するという点。

早期対応については、朝が大事、毎朝の状況が大事で、朝、必ず、学年に割り当てたフリー団がずっと廊下を回ります、朝の状況を見ながら、担任が対応するのを手助けしております。そういったことで、朝の子どもたちの様子を把握して、対応するようしております。

連携等は、今、原田先生が言われたとおりなのですが。1つ、気になるのは、ずっと教員になってから、研修等で、子どもたちのいろいろな問題行動に対して、受容して承認するというのは、非常に研修が行き届きまして、今、そういった流れが大きくあると思いますが、その後の、どういんでしょうか、指導ですね、確かな導きというか、そういったことに対することが、ちょっと弱いんじゃないかと思っております。よく子どもの話を聞き、寄り添って、ものすごく受け入れている、その次の段階が、教員を見ている、その次にどう指導するんだというのが、大きな課題かなと思っております。決して、体罰しろとか、頭ごなしに怒れという意味じゃないんですが、その後の本当に確かな導きを学んでいかないと、受け入れるだけで、容認するだけで、結果としてどうつながるかわかりませんが、そのあたりが弱いなと思っております。

以上です。

○市長 はい、ありがとうございました。教育長並びに小学校、中学校の校長会の会長から、現状のお話、ないしはこれからの対応について、少しお話をいただきました。

これからは、委員の皆さん、校長会のお二人ももちろん入っていただいて、ディスカッションに入りたいと思います。誰からでも結構です、よろしく願いいたします。

どうでしょうか。はい、じゃあ、石井さん、はい。

○石井教育委員 失礼します。ご説明ありがとうございました。

まず、教育長からご説明いただいた部分で、議論の前提になるところですけども。全国との比較についてですけれども、今日お配りいただいている資料4ページにも、各都市の状況というのを記載をいただいておりますけれども。暴力行為といじめについては、各都市間で数十倍の開きがありますが、実態として、これだけの差があるとは考えられないかなというように考えております。それに基づいて、全国との比較に基づいて、分析、参考にはすべきだと思うんですけども、これだけをもとに分析するのは、ちょっと危ないかなというように理解しております。

それから、ただ不登校についてはデータをとりやすいので、信頼性が高いデータというように受けとめました。その中で、中学校の不登校については、全国値はどんどん上昇傾向にある中で、岡山市あるいは岡山県は、それを食い止めているという状況にあるというように認識しております。予断はならないと思うんですけども、今されている取組の効果があつたというように受けとめました。

しかしながら、小学校は、暴力、いじめ、不登校において、全国的に悪化していて、岡

山市も悪化している、あるいは顕在化したというように見えます。中学校のほうで改善されているので、中学校3年生のところの出口で改善されればいいという問題ではなくて、やはりいろんな学年で起こった傷というのは、それぞれのご自身の中に残っていくものですし、あるいは不登校というのは蓄積して、中3がピークの数字になっているというように見えています。それらを踏まえると、個人的には、今ご説明いただいたような中学校の継続的な取組と、それから今後の取組のところでもご説明いただいたような、小学校に、中学校でやっているやり方、そのままではないんだと思うんですけども、小学校でより強力な取組が求められているのではないかなというように認識しております。

最後に教育長がご説明された今後の取組について、これを保護者や子どもに強力なメッセージとして出すということは、私は非常に有意義なことだなというように認識してますし、場合によっては、子ども、保護者に限らず、岡山市民に知らせていただきたいなというように思っております。

その中で、いまひとつ、私の中ではっきりしないのは、小学校の、データとして悪化している、あるいは顕在化している、この真の原因とか背景になるものが何なのかというところが、少し理解ができておりません。先ほどご説明いただいたような、携帯とかスマホというのが背景にあるのか、またそれ以外のものが背景にあるのかというところが理解できておりません。いろんな対症療法ではなくて、その根本的な問題というのにたどり着いて、そこを押さえていくことで、より効率的な手が打てるのではないかなというように考えておまして、先ほどご説明いただいたような中学校で成功したやり方とか、あるいはほかの都市でやっているような成功したやり方というのを取り入れられたらいいなというように感じております。

それからあと、最後にもう一つだけですけれども。数値目標というのは、もちろんあるんですけども、その数字だけがひとり歩きしないで、今ご説明いただいたような、一人一人に寄り添って、それからさらには問題行動の後の、よりよくなるための個別の対応が、数字だけがひとり歩きしない形で進んだらいいなというように感じました。

以上です。

○市長 今、石井委員の発言の中で、横の関係というか、各都市との比較というのは、多分、若干、見地の差みたいなのがある可能性はありますよね。ただ、我々の経年的な変化というのは、肌で多分感じるができるんだと思うんですけども。先ほど、特に、例えば小学校の暴力行為の経年変化に関して、余りそこは言及がなかったんですけども、そ



の原因というか、それに関して、どういうことを考えられているのか、これは校長会だけの問題ではなくて、事務局のほうで、教育委員会のほうでも結構なんですけれど。それについて、誰かコメントしていただけないでしょうか。

○服部教育支援担当課長 失礼します。教育支援担当課長でございます。小学校の経年的に見た中で、何が、どこが増えているのか、なぜ増えているのかというお話だったと思いますが、1ページの暴力行為の推移のページの下から2段目、岡山市の小学校の特徴というところで、内訳を見てみると、小学校でも対教師暴力というのが増えています。この内容を見ると、例えば学校の先生だけではなくて、さまざまな支援員さん等が学校に入っておりますが、その支援員さんが、子どものよくない行動を注意したときに、支援員さんを蹴ってしまうとか、そういったことから、本当、ささいなことなんですけれども、それをさらに注意した担任の先生に手を出してしまうみたいな。そういったようなものが見られます。なので、教員だけではなくて教職員全体で、指導のあり方や指導体制、こういうものを改めて見直す必要があるのではないかなということ。

それから、一時期は、かつては、特定の学校といったら言い方は悪いんですけども、偏りもあったんですけども、2つ目の丸のところに、暴力行為が去年発生しなかった学校がずっと減ってきているというデータも載せています。これは市域全体を通して、そういうことに気をつけていく必要があるのではないかなということ、そういうことを考えています。全体的に、子どもたちも集団生活の中で生活していると、さまざまなトラブルがあるんですけども、子どもたち自身で、そういった問題、トラブルを解決していく力、こういったことを身につけさせていく必要があるのではないかな、そういうように分析をしています。

○市長 根本的な要因というのは、先生たちの指導に問題があるという、問題が出てきている、今の子どもたちの動きに対応できていないという認識だということではないですか。

○服部教育支援担当課長 子どもたちの実態が変化していることに対する対応が不十分な面があると。

○市長 わかりました。石井さん、何か。いいですか、今ので。

○石井教育委員 すいません、失礼します。子どもたちの実態が変化してきているという、それは何なんだろうというのが、また次にどんどん、なぜなぜと浮かんできて。できるだけ、その根元のところでの対応、対症療法も要るんですけども、根元を知るとい

ことも、でき得ればたどり着きたいなというふうに思います。

○市長 子どもは、どういうふうに変化してるのか、その背景は何なのか、難しい問題だと思いますけどね。私も石井さんと同感のところがあるんで。

じゃあ、服部さん、はい。

○服部小学校長会長 ここ5年ぐらいで、子どもたちの家での遊びとか人間関係の構築というものはものすごく、びっくりするほど変わっています。中学校でも問題になっていますけど、子どもたちと話をして、昨日の夜、5時間ゲームしたとか、4時間DVDを見たとか、そういった遊びがほとんどになってきています。子どもは一緒に集まって遊んでいるんですけど、肌が触れ合って、けんかしたり、体を使った遊びじゃなくて、90%以上の子どもはゲームとかの遊びばかりで、子ども同士で昔みたいに、けんかしながらトラブルを処理していたという経験がどんどん減っていく。これは、間違いなく、人類が減びるんじゃないかと思うぐらい、極端に言うと、本当に、どうしようもないんですけど、世の中の流れで、びっくりします、本当に、実態を聞くと。

1日に24時間しかなくて、生活時間が十数時間しかないのに、その中で4時間も5時間も、中学校にこの前聞いたら、1日5時間も6時間も、ずっとスマホ持ってる子がいっぱいいると聞きました。その中で、子どもたちは人間の接し方、いろいろトラブルの解決の仕方を構築するのが非常に難しい時代です。ただ、これを言うと、教育が逃げているようなんで、どうしたらいいのかというのは難しいんですけど、実態としては、間違いなく、それはあると思います。

○市長 非常に強い危機感が表現の中にも出てきましたけれども。今、服部さんのおっしゃってるというのは、先生にとっても相当の危機感のあらわれだろうと思います。何かご意見あれば、お願いいたします。

○妹尾教育委員 よろしいですか。

○市長 はい、どうぞ。

○妹尾教育委員 ありがとうございます。妹尾です。ピンポイントで、意見というか、ちょっとお尋ねをしたいんですけども。私、今回のデータを拝見しまして、一番驚いたのが、小学校の不登校で、特に低学年の不登校児童が多いというのがありまして。私自身が子ども時代もそうですし、私の息子が小1、小2だったときのことを振り返ってみても、何でここが最近増えてきてるのかなというのは、実感を伴って理解できないところがありまして。特に、服部校長先生にお尋ねをしたい、肌感覚でこういうデータどおりなのか、

もしそうだとしたら、何が原因でこうなってるのかというのを率直にお聞きしたいなと思いました。

○市長 よろしいですか。

○服部小学校長会長 不登校の、私が知っている範囲で言うと、保護者の方に関係するケースがかなりあると思います。つまり、保護者が学校に行かせようと思っていない、余り思っていない保護者がかなりいるようです。昼夜逆転の生活など、かなり厳しい状態もあったり、その保護者の変化もかなりあると思います。

それと、先ほどの話に戻るんですけど、不登校の子どもは、家でずっとゲームをしている場合もあります。昔は家にいてもおもしろくないし、学校へ行ったほうが良いと思ってきた子が、家のゲームで生きていってますね。それも間違いないと思います。

○藤原教育委員 すいません。

○市長 はい、どうぞ。

○藤原教育委員 さっきの子どもの変化ですが、本当にそうだろうなと思います。私は個人的には、子どもは自然が多いところで育ったら、絶対に、まあまあいろんなことがクリアできる子になるかなと思うんだけど、そうはいつでも、今のご時世、岡山市といえども、そういう自然の中で遊ぶ体験も少ないということで、多分教育委員会も自然体験やいろんなことを提案してるんだと思います。

私が1つ気になったのは、小学校の低学年に、中学校のような状態が、対教師暴力が出たりとか、不登校が出たりとか、いじめが増えたりとか、これというのは、多分、中学校の対教師暴力とは、ちょっと種類が違うんじゃないかと思うんですね。そのときに思うのは、就学前と小学校1年生のジョイントのところで、保護者のかかわりとか、保護者の価値観であるとか、物事の対応能力であるとか、そういうことがちゃんと育てない親と子どもだったら、多分このような、ちょっと本能に近いようなことが起きるのかなと。今の対応が、現場の先生方が言われた対応方針、あれはもう全部正しいと思うんですよね。でも、じゃあ発達段階で、小学校の前半のところ、中学校と同じようなことをするか、例えばカウンセリングマインドのことで、中学生、思春期ぐらいになるとカウンセリングマインドの割合が大きくて、小学校の低学年は、もっと違うやり方と併用しないといけないかなと。その辺の手法を、もっと端的に、単純に、やる方法も要るのかなという気がしています。

そのためには、教育委員会が、「目標実現に向けて」という、このリーフレット、これ

がこのままかどうか、手直しがあるにしても、こういうアピールとかメッセージは、本当はもっと早く出てもいいのかなというような気もしています。今、岡山市が、学力のことでだんだん授業が変わってきたり、親の感覚も変わってきたりしている。今度は、不登校や問題行動やいじめに関して、絶対に学校はこういうことを許さない、安心した環境をつくるんですよとか、教育委員会がそれを保障するんですよとかというのは、これは絶対必要なことかなという気がしております。

だから、そのことと、もう一つ、今の低学年に関する問題も、今のご時世の環境のことに触れても、これは必要なことではあるんだけど、その中でどうしていくかというのは、保護者対応であったり、もう一つは、やはり学校だけでできないということが余りにも増えてきていると思うので、もう一回、そこを見直さないといけないのかなという気がします。

○市長 今の藤原さんに対して、教育委員会でも校長会でもいいんですが、何かコメント。

はいはい、じゃあ服部さん、はい。

○服部教育支援担当課長 はい、失礼します。教育支援担当課長です。今言ってくださったような背景、原因、当然、それはあるんです。それは、やはり時代の変化だと思うんですけども。それらも踏まえた上で、じゃあ学校でどういう指導が必要なのか、教員はどのような指導をしていくべきなのかということをやはり考えていくのが、学校、そして我々教育委員会の役割ではないかなというように思います。藤原委員から、ちょっと遅いのご指摘をいただいたんですけども、改めて、ここで、こういうメッセージを出すことで、教員も考える、保護者にも考えていただく、地域の方々にもご意見をいただくという機会を、是非しっかり持っていったらなということで、今回、1つ目の柱の取り組みを出させていただくこうと考えたところです。

以上です。

○市長 でも、藤原さんが言われた、単純なメッセージって、すごい重要だと思いますね。ごちゃごちゃ書いてもわからない。

はい、どうぞ。片山さん、お願いします。

○片山教育委員 それでは、失礼いたします。私もやはり、小学校低学年のお子さんの不登校とかいろいろな問題行動が増えているということに関しまして、どのような実態かなと思うのですが。就学前から就学後という、保護者の方が学校の先生と話し合う機会と

いうのは、画然と減ると思うんですね。幼稚園も保育所も、基本的に毎日保護者が担当の先生と話す時間があります。そういったところで、ちょっとした疑問とかも出しやすい、そこで保護者の方の不安とか、あるいは言えない人に対しても、保護者の方に対しての察しとか、園の先生方から察せられて、いろいろ先回りして配慮されたり援助されたりということがあるかなと思うんです。

そういう意味で、小学校に上がられてからの最初の段階での、保護者の方への支援と申しますか、学校がとても見えにくい。特に、第1子の方については、私もそうでしたけれども、本当に学校で子どもが何をしているのかというのがよくわからないし、子どもに聞いても、何かとんちんかんな返事が返ってくるし。参観日に何うと、とても整然と、シナリオどおりと言ったら変なんですけれども、非常にいい子の姿を見せてくれるんですね。だけでも、親としては、事実、子どもが、いつもうちの子はちゃんとしてるのかなというのが気になって。親が見てるからいい子にしてるんだけど、本当にそうかなとか、そういったことが、すごく気になって。そういった、担任の先生と自分の子どものことを、つながっていくという意味での、何か1年生なりの支援というものがあったら、ありがたいかなと、保護者の立場で思ったりします。

そういう意味では、参観日もすごく何回もしていただいて、学校に行かせてもらって、だんだん保護者同士も慣れるし、先生との関係もできていくんですけども、そうはいっても、毎日子どもと一緒に担任の先生に会っていた就学前の体制とは、やはり随分違うなと思います。何か先生からお電話があると、必ず悪いことという何か察しをしてしまつて、何をやったのという感じになってしまうところが、親のほうからすると、何か言っていくのも、いいことは言いにくくて、悪いこととか困ったことというふうになりがちなところがあって、自然に対話をするというのが難しいので、不安なまま時間が過ぎていくところがあるのかなというように少し思いました。ですけれども、非常に細やかに丁寧に、ちょっと連絡帳に書くと、いろいろ指導していただいたり、あと、先ほどの中学校でも、忙しい先生方が、生徒さんたちから生活ノートのチェックを毎日されているというのを聞いて、そういう対話というのはすごく大事なことで。

もう一点、暴力ということに関して言うと、暴力は振るってはいけないんだけど、振るわざるを得ない、カウンセリングマインドばかりではいけないというのもわかるんですけども、振るわせると、その子についても傷ができる、振るってしまったという。その罪悪感と、振るうところまで、どっちかという、もうそうしないとやりきれない、つまり

言葉で表現する力というのも、引き続き大事な、自分が何を思ってるのか。ゲームの世界というのは全部視覚的に捉えられるところがあると思うので、いかに自分の思いを、絵文字とか物ではない、自分の言葉を生で表現する、そんな力も何か大事な、未然に防ぐとか、あるいは何かが起こったところで早期対応する中で、子どもの思いをしっかりと自分自身が言える力ということをつくっていくのも重要なことかなというように思いました。

それから最後、1点、質問なんですけど、先ほどの小学校の暴力の増加の話がありました。中学校では、逆に言うと、減少、暴力が減少しているというところで、小学校では、支援の先生が注意されたところ、子どもがそれに反発して、蹴るとかという暴力が出るということがあったんですけども。それに対して、どういった改善策というか、そういったことが少しでも変えられるとすれば、どんなことがあれば変わっていけそうなのか、ちょっと理想の部分もあるかと思うんですけども、そういったご意見を少し伺いできればありがたいなと思います。

以上です。

○市長 はい、教育委員会ないしは校長会、コメントをお願いします。

○服部教育支援担当課長 はい。

○市長 どうぞ。

○服部教育支援担当課長 はい、教育委員会です。ありがとうございます。改善策は一つ、二つでは、なかなかないとは思いますが、先ほど片山委員がおっしゃっていた、言葉で表現する力をつけていく。かっとなったときに、例えば深呼吸をすとか、その次に言葉を交わすとか、そういった、本当に単純なことなどを、子どもたちにもスキルとして身につけさせていく、そういったことも必要なことかなということ。それから、教員の体制として、複数の目でしっかり見ていくこと、ささいなトラブルを暴力を伴わないところで未然に防いでいくこと、そういった体制をつくっていくことなどが学校に求められていることではないかなというように思います。

以上です。

○市長 どうぞ。

○服部小学校長会長 小学校の暴力というのも、いろいろあるんですけど、甘えの延長で、自分をコントロールできなくなって暴れて、つい当たってしまう、たたいてしまうという状況で、中学校も似たようなものかもわかりませんが。正直言いますと、数字として出す出さないというところが難しいところなんです。これを暴力ととるか、とらない

か。この政令指定都市のところで、新潟なんか飛び抜けて多いですけど、新潟が暴力的な学校ばかりかという、そんなことは全然ないわけなんです。どこまで出すかの問題があるんですけど。

ものすごく、私が見ていて、小学生の暴れてる子は、本当にもう、かわいそうなという言い方は変なんですけど、例えば朝御飯も食べさせてもらってなくて、おなかが減って、3時間目ぐらいから荒れてきて、友達にちょっかい出して、注意されたら、かっとなるという。何か、ものすごく家庭環境を背負ってやってきている子どもが、そういう状況になっている場合もあるというのを非常に思います。

それから、先ほど言葉の力と言われたのは、まさにそのとおりだと私も思っていて、うちの学校でも言語力パワーアッププロジェクトということで、言葉を大切にしようということで、いろんな今までの名言、名詩、俳句とか百人一首とか、そんな言葉を徹底的に覚えさせています。そういう言葉は、すぐには学力にはつながらないかもしれないですけど、10年後20年後には返ってくると信じて、そういう言葉をいっぱい豊かにしているということをやっています。それは、自分としては自信を持っているんですけど、いつか子どもの生活が豊かになると思っています。

○原田中学校長会長 中学校です。先ほど出ましたけど、恐らく小学校低学年の暴力行為と中学校で起きる暴力行為とは、少しタイプが違うかなと思います。中学校では、大分もう心も成長している段階です。それで、こちらは先ほどカウンセリングマインドということをお願いしたんですけども。要するに、生徒理解に努め、受容してかかわるというようなことの根拠は、結局暴力を振るったと、行動として暴力を振るった。でも、その背景に一体何があるのかなと考えたときに、その子の環境であったり家庭の事情、そういった心情を理解するといいますか、結局、その原因は、さみしくてさみしくてかなわないというようなことが心に潜んでる。ですから、一昔前なら、何か頭ごなしに「暴力はいけんのじゃ、わかったか」ということで対応できたことでも、やはりそれだけでは通用しないと言って聞かせて、心に訴えると、そういうふうなのが必要になってくるのかなと思っています。

○市長 暴力行為を見てると、平成29年度が、これは歴年ですか。年度ですよ。

○服部教育支援担当課長 年度です。

○市長 平成29年度は小6がすごい多いんですよ、これ、中1と同じぐらい。中2、中3と減ってくるんですけど。これは小6って、今、平成30年ですから、中1になってるん

ですよね。今、この中1の状況って、どうなってるんですか。

○服部教育支援担当課長 はい。

○市長 どうぞ。

○服部教育支援担当課長 教育支援担当課長です。この6年生が多かったのも、幾つかの学校で特に多かった学校があったんですが。その子どもたちが進学した中学校、これも実は状況はさまざまです。ある中学校では、去年暴力を振るった回数が多かった子が、非常に落ちついてきていて、全体の中で特に目立たないというような状況になっている中学校もあります。一方で、その集団が上がってきたことによって、中学校2年生と連動してしまっ、2年、1年がちょっとごそごそしていてというような中学校もあります。学区によって、さまざまであるという状況です。

○市長 その要因分析というのは、やってるんですか。

○服部教育支援担当課長 はい。し尽くしているかという、まだ途上だとは思いますが、これから取り組もうとしている、中学校区でやっていこうといったようなことを、先進的に取り組まれているところが、比較的落ちついているというような状況は見てとれます。したがって、こういう方針として、中学校のノウハウを、中学校区で共有したりするというのが効果的であるということを広めていきたいと考えています。

○市長 それが、今の「目標実現に向けて」という教育委員会資料の「今後の取組」の2つ目の丸ということですね。

はい、どうぞ。

○藤原教育委員 実態の中でもう一つ、この前、二十何年塾をしている人が、子どもの変容ぶりを言われていたことの 하나가、子どもたちは家ではみんなすごくいい子なんですよと。塾に来たら、何か本領を発揮するようなどころもあったり。だから、同じように、学校へ行ったら、自分の素を見せて、意外と家ではものすごくいい子で、余り叱られるようなこともしない。時々聞くのが、いじめられていても、親にはいじめられてると言えないとか、言いたくないとか、それから死にたいと思っても親には言いたくないというの、時々聞きます。だから、何かちょっと子どもが変わってきていて、親には心配をかけたくないとかというの、ちょっと増えてきてるのかなと。

そのためには、保護者の認識を変えてもらわないといけないから、現場が、特に悪いことで連絡したときに、うちの子に限ってというような言い方もあるかもしれないんだけど。全体的に保護者の認識が、岡山ではこんなに暴力がある、関心がある人はこういう数



字は気にしていると思うんですけども、こんなにいじめがあるとか、でも、それは今、途中、通過地点で、よくなるようにしているというようなことも含めて、さっきのメッセージとかアピールに、しっかりわかってもらうように保護者に伝わらないといけないし。多分、いろんな背景を背負ってる中には、食べられない子もいたり、虐待を受けてる子もいると思うので、そういう意味では、民生委員さんとか、子ども食堂をしている人であるとか、いろんなこととかかわりを持っている人とのネットワークを、これは学校だけでできることではないだろうなと思いつつながら、お聞きしました。

○市長 はい。委員さん、何かありますか。

教育長何か、発言。はい。

○教育長 最後に言います。

○市長 最後に、はいはい。最後にとっておくそうです。

じゃあ、私のほうから、ちょっと。今日は、特に服部校長さんの、人類滅亡というような言葉が出た、いら立ちみたいなものあらわれなのかなという感じもしています。特に、こういう、小学校がさまざまな指標において数字が高まっている。これ、これは岡山市と岡山県って書いていますよね、いろんな数字のところ。例えば、小学校の暴力行為、岡山市が7.2、岡山県が4.9って、これ、今、教育長に確認したら、岡山県の数字には岡山市分も入ってるようですね。となると、岡山市除きでいくと、もっと大きな違いが出てきているということなんだと思うんですよ。

だから、別にこの問題だけを捉えてるわけではないんですけども、特に小学校、中学校のほうは数値は高いんですけど、全体として見ると、中学校もだんだんと、この2年、3年、従っていくほど世の中がわかってきて、忍耐とかいろんなことが備わっているんだろうと思うんです、備わってきてるんだと思うんですが。一方で、この一定のところは非常に高い。この、やはり、そういう行為が岡山市で多く行われてること自体は、我々としては認識せざるを得ない。

そうなったときに、確かに背景は、コミュニケーションがなかなかできない、これが今ゲームを1日4時間やってるとかというような話もありましたし、保護者の問題だという話もありましたが、それは多分、全国どこだって同じ議論というのがあるんだろうと。ただ、ゲームを4時間してるかどうかは別にして、4時間をさせないようにしているとすれば、それが何でできるのか、どうしてそういう状態に持っていけるのかということが重要なんだろうと。言葉で言うのは簡単だとは思いますが、そういう環境に子どもた

ちを置いてあげないと、子どもたちの将来に非常にマイナスになってくるということがあ  
るのではないかなというように思います。

保護者の理解というのは、藤原さんがおっしゃるように、もう絶対必要なわけですが、  
やはり保護者、そして地域の方にそういうことを促していくというのも、つらいかもしれ  
ないですが、やはり先生の役目なのではないかなというように思います。先ほど、服部課  
長のほうから、中学校単位でやるとうまくいってるといような例も、彼から聞いていた  
んですけども、そういうのがあれば、それを見習っていくというか、ということ  
で強いメッセージを、そして単純な、わかりやすいメッセージを、先生、そして保護者に  
強力に示していく、こういうことが必要なのではないかなというように思うんですけ  
ね。

どうでしょうか、委員の皆さん方。

○石井教育委員 いいですか。すいません。強いメッセージということで、先ほど片山委  
員もおっしゃってたんですけども、私も小学校1年生に第1子が今いて、幼稚園と小学  
校の違いをちょうど感じる時ですけれども。親としてどうあったらいいかとかというの  
は、もっと学校からも、こうあってほしいというのは言っていたほうが、こちらも  
遠慮する部分もありますし、何かどんどんメッセージをいただいて、お互いが遠慮し合う  
ようなことがないようであっていただきたいなと思います。また、親だけに限らず、市  
民、できるだけ多くの人に、強いメッセージというのはいただけたらいいかなというよ  
うに感じました。

○市長 はい、ほかの委員の方、どうでしょうか。

片山さん、いかがですか。

○片山教育委員 失礼いたします。今、石井委員がおっしゃったように、私も、わかりや  
すい、本当にメッセージをたくさんいただいて、親も本当に、学校の先生方から見ていた  
だいた子ども像をしっかりとっていただくことで初めて、気づかなかった子どもの姿に  
気づいたり、新しい集団の中での子どもの、家庭で見えない姿を教えていただくことにな  
るという意味で、何か保護者教育というか保護者支援という意味で、学校の先生からいろ  
いろ教えていただけることが、とても大事な、この状況において重要なことのひとつではな  
いかなというように思いました。

以上です。

○市長 先生が遠慮してるんじゃないかというのが、今、2人の意見としてありましたけ

ど、教育委員会、校長会でもいいんですけど、コメントあれば。

○教育長 はい。

○市長 はい。

○教育長 問題行動等の防止及び解決について、本当にさまざま、貴重な意見をいただいて、ありがたいなと思っております。教育長に就任して以来、多くの学校を訪問して、校長先生方と懇談をしております。その中で、教師の生徒指導のあり方について、その分析に共感を覚えるということがあります。先ほど、小学校の服部校長先生も言われたんですが、それは、やはり毅然と叱る、叱れる教師が少なくなってきたのではないかなという危惧であります。教師は、確かに一人一人の子どもをしっかり理解して個性を尊重するということが必要でありますし、保護者の思いもしっかり受けとめて、保護者からの要望、期待に答えていくということも大切です。しかし、最近、子どもがよくないことをしているのに、よそ様のお子さんだからと弱腰になったり、きつく叱ると後から問題になるかもしれない、学校に来なくなるかもしれないという遠慮、自分にはそこまで叱る権利はないなどと考えて、実は結果的に甘やかしたり放任になっていることもあるのではないかと、これでは教育にはならないのではないかなということを思っています。

このことは、実は誰でもわかっていることなんですけれども、特に若手の教師、全てではないですが、若手の教師の中に、毅然とした態度で叱ることがなかなか難しいのではないかなという実態があるようです。小学校で増えている暴力行為に対して、教師が学校の中で客観的な判断に基づいて冷静に叱る、怒るのではなくて「叱る」という言葉なんですけれども、そういう態度、指導を発揮していく必要があるのではないかなということを思っています。家庭で子どもが悪いことをすれば、親は真剣に、心から厳しく叱ると思っています。学校でも、子どもが人として悪いことをしたときは、親と同じように、しっかり厳しく叱ることが基本ではないのかなと思います。人として悪いことというのは、私は命と法律と人権に反することであると思います。

先ほど、片山委員から、こういうことをしっかり親に伝えてほしいということもあったと思います。ただ叱ればいいということではなくて、しっかり保護者と協力して、子どもを正しいほうに導いていく、こういうことを改めて学校に伝えてまいりたいなということを思った次第であります。

○市長 先生が毅然と子どもを叱るというのは、叱った後も先生を守っていかなくちゃいけないですね。それは、教育委員会として守る、市として守る、市民全体で守っていく、そ

ういうことが必要ではないのかなというように思います。それらを具体的に、メッセージとして整理をしていく、こういうことが必要なんで、この資料も悪くはないけれども、より単純かつ、わかりやすいメッセージを教育委員会のほうは用意をお願いして、徹底するようにはしていただければと思います。

何かございますでしょうか。いいですか。

○藤原教育委員 いいですか。

○市長 はい、どうぞ。

○藤原教育委員 さっき、教育長も言われたんですが、その厳しさというところ、多分、保護者の方々は、厳しさと温かさの兼ね合いがわからないんだと思うんです。家で、これ以上したら虐待と思われるかもしれないとか、これを許していいのかどうか、それは多分、核家族であるとか、地域力であるとか、いろんなことで学習する機会が少ない家庭が増えている。ということは、やはりこれは叱っていい、叱らないといけないとか、これは受けとめて、温かく、カウンセリングマインドというような言葉は使えないとしても、こういうことにするんだというのを多分、就学前との小学校とのジョイントの段階で、より発揮する。それから、小学校6年生と中学校の間のジョイントで、今度、思春期になったら、こういうことの厳しさと温かさが要るというような。

さっき言葉の力、ほかのところで言われたと思いますが、単純な言葉で価値観がつくれたり、ルールがつくれたりするような工夫は、どんどんしていったほうが、すっと胸に落ちるのかなという気がしております。だから、こういうメッセージは本当に、手段としたら、とても有効だと思います。多分、迷ってる、育児書を読むほどでもない、でも自分では余り自信がないという親御さんを、どんなにかしてサポートする。そして、さっき市長さんが言われた、先生がこれだけ言っても守られてるという安心感は大きいと思います。だから、市全体として、これを出すということは、とても教員を押し出すことになるのかなと思って、お聞きしました。

○市長 はい、そろそろ時間でもありますが。

それからあと、数値の話ね、数値はいろいろな捉え方があるという話がありましたけども、私は重要だと思いますよ、そこは。我々として、確かに横の数値比較みたいなものは若干異常値が出てくるようなところもありますが、そこはでも大きな面で見ると、客観性を保っているものだと思いますし、我々の経年的な数値というのも、これは大きな指標になると思うんで、それは数値を目指して、一定の我々の目標の数値を目指してやっていく

というのが、これがやはり、それを否定するわけにはいかないんじゃないのかなというように思います。そういう面で、今日の指摘事項をもう少し整理していただいて、一部にいろんな問題が出てきていますから、少しでもそれがよくなるように、そして目標を達成するように、教育委員会のほうで、またよろしく願い申し上げたいと思います。

それでは、事務局に進行を戻します。

○司会 ありがとうございます。

次回の会議につきましては、改めて通知をさせていただきます。

以上で平成30年度第2回総合教育会議を閉会いたします。お疲れさまでした。ありがとうございました。

午後4時34分 閉会